

南高今昔

Part VII

ヒマラヤ杉について



2013・4・26 西側のヒマラヤスギの根を掘り出した状況を西方から写す

第一校舎北側に大きなヒマラヤ杉が2本立っています。三階建ての校舎よりもはるかに高く、一方は二十メートルを超え、正門からも確認できるほどのす。

そのヒマラヤ杉に大きな転機が訪れています。平成二十六年度から校舎改築工事が始まりますが、計画では現在のヒマラヤ杉の位置には新校舎が建設されることになり、その処遇が危惧されていました。しかしこれを耳にした香友会の河野副会長、町川理事を中心とした有志の方たちが何とかヒマラヤ杉を残してほしいと要望し、何度か学校側と話し合いを持ちました。そしてみなさんの熱意、校長先生、事務部長ら学校側の尽力により、ヒマラヤ杉を移植して残す方向で進むことになっています。末澤緑地・大成造園により三月には試し掘りをし、根の状態を確認したうえで、状態の良い大きい方の一本を移植するよう根回しをして、現在はその適切な場所を検討中です。

このヒマラヤ杉は校長先生がごあいさつで詳しく述べられているように、長い歴史を持ち、創生期から高松南高校のすべてを見守り続けてきた、まさにシンボルの存在と言えます。その木が残るといふことは私も卒業生の一人として嬉しいかぎりです。今回多大な尽力をいただくとともに貴

重なる資料を提供してくださった町川理事の「時の流れにより校舎などが変わっていくのは仕方がない。だけど記念碑や植樹した木などは歴史的な意味を考え、できるだけ残していつてほしい。」という言葉がとても印

象に残っています。これからも高松南高校の良い伝統や歴史を守り、次の世代に伝えていくことが大切だと思いますし、私たちの使命であると考えています。

香友会事務局 亀田 直樹



昭和39年



現在